

■論文題目	地方における文化芸術活動の維持と発展について—一般社団法人岩手県芸術文化協会による芸術体験イベントなどから—		
■氏名(学籍番号)	藤沢美紀(0412021092)		
■指導教員	倉原宗孝	■所属コース	地域社会・環境コース
■キーワード	文化芸術活動	芸術体験イベント	岩手県

1. 研究の背景と目的について

国では平成13年12月施行、平成29年6月改正の「文化芸術基本法」や平成20年11月施行の「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」、平成24年6月施行の「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」などの文化芸術に関連する法律が制定されている。古賀(2022)は「文化芸術振興基本法」から「文化芸術基本法」への改正趣旨の改正趣旨1に着目し、「第1期計画に定められた『目標3心豊かで多様性のある社会』では『文化芸術は、人々が文化芸術の場に参加する機会を通じて、多様な価値観を尊重し、他者との相互理解が進むという社会包摂の機能を有している』とされており、人々が生きる社会の基盤に『社会包摂』の考え方があり、そこに文化芸術が一定の役割を果たすものであることが述べられている」と指摘している。このように、文化芸術活動が社会的にも重要視され、国や地方自治体だけではなく、NPO団体や企業も文化芸術活動に携わっている動きもみられる。文化芸術活動が社会的にも持続される必要性がある一方、地方では芸術文化の担い手が都市部と比べると不足している現状がある。地方の芸術文化の担い手不足が課題とされており、地方の芸術文化自体の持続も必要となっている。

岩手県では、昭和22年から「岩手芸術祭」が途絶えることなく開催されており。今年で77回目の開催となる。県民芸術祭のように地域で行われている芸術祭の中で、岩手芸術祭は全国的に見ても昔から行っているイベントであり、貴重な事例であると言える。そのため本研究では、全国的に比較的早い段階で文化芸術活動に取り組んできた岩手県を調査地域として取り上げる。岩手県のこれまでの文化芸術活動の歴史をまとめ、時代ごとの特徴を捉えていく。また、岩手県が主催し、『岩手芸術祭』の共催団体である一般社団法人岩手県芸術文化協会が運営主体となっている芸術体験イベントの活動に着目し、今後の岩手県における文化芸術活動の方向性について考察していくことを目的とする。

2. 調査対象について

一般社団法人岩手県芸術文化協会は岩手県の芸術文化団体をまとめ、団体同士をつなげ、育む役割を担っている団体である。代表的な事業内容として岩手芸術祭の開幕に合わせて「岩手芸術祭総合フェスティバル」の開催があげられる。これは、岩手県内最大の芸術祭典となっている。さらに、「岩手芸術祭総合フェスティバル」と同時に芸術体験イベントが2017年から岩手県民会館内で開催され、盛岡市肴町商店街アーケード内や盛岡市以外の地域でも毎年開催されている。

3. 調査方法

3つの調査方法で調査を行った。1つ目は、岩手県の文化芸術活動の時代ごとの特徴を捉えるため、時代ごとに文化芸術活動の出来事をまとめた。2つ目は、現在の岩手県の文化芸術活動の現状を把握するために、芸術体験イベントに準備段階から参加し観察調査を行った。3つ目は、岩手県文化スポーツ文化振興課の文化芸術に関する調査に関わらせていただきアンケート調査を行った。

4. 調査結果

4-1 岩手県の文化芸術活動の時代ごとの特徴

明治期の特徴として、文化芸術関係の雑誌類の刊行が多く見られていた点、文化芸術関連団体の発足が多く見られていた点があげられる。大正期の特徴として、明治期と同様に文化芸術関連団体の発足と雑誌類の刊行がみられる。また、劇場の開場も特徴的な出来事である。昭和期の特徴として文化芸術（特に芸術分野

において）が第二次世界大戦中の人々の戦争への士気をあげ、第二次世界大戦後は復興に向けて人々のモチベーションをあげる動きがみられた点である。平成・令和期の特徴として、「岩手県文化芸術振興基本条例」の制定と、これに基づく指針の策定が第三期に渡り行われてきている。また、三陸国際芸術祭の開催も始まった点が特徴的である。

4-2 芸術体験イベントでの観察調査

9月29日に肴町商店街アーケード内で行われたイベントでは、小さい子どもから高齢者の方まで幅広い世代の参加と、マイノリティな方々の参加も多かった。そのため、この芸術体験イベントが「社会包摂」の機能を果たしているのではないのだろうか。また、イベント自体の運営スタッフ内に若い世代の人がほとんどいなかった。当日は重い物の準備も多かったことから、若い世代の力が必要になってくると考えられる。

釜石・大槌地区で行われた地域開催では、盛岡地区よりもにぎわっている様子であった。盛岡地区よりも高齢者の方々の参加が多かったように感じた。

4-3 アンケート調査結果と考察

アンケート調査は、9月28日と9月29日に肴町商店街アーケード内で行われた芸術体験イベントで行われたものである。アンケート結果の数値については本文に記載している。アンケート調査結果から、日頃から芸術文化に興味があっても、時間の余裕がないという理由から芸術体験イベント後にも続けたいもの（活動）がなかったと答える人も一定数見られた。また、イベントが開催されていることを知らなかったと答える人は4割を超えていたことがわかった。これらの結果を踏まえると、文化芸術活動の維持と発展のためにはワークライフバランスの制度の必要性の他にも、芸術文化に興味があるが時間的な余裕がないと考える人が、芸術文化に触れることのできる機会と場が必要であると考えられる。芸術体験イベントはこのような機会と場を提供しており、意義があると考察する。肴町商店街アーケード内のような生活圏内や日常生活の中に芸術文化があり、誰もが芸術文化に偶然触れることができる（「偶然触れる文化芸術」と定義）機会と場の提供が必要なのではないのだろうか。

5. 考察と今後の展望

本研究では、岩手県の文化芸術活動が社会的・環境的背景によって発展してきた点、「偶然触れる文化芸術」が必要である点がわかった。また、芸術体験イベントが「社会包摂」や「偶然触れる文化芸術」の機能を担っていると考えることができ、芸術体験イベント自体を存続させていく必要がある。「偶然触れる文化芸術」の維持と発展が、現在の岩手県の文化芸術活動の維持と発展につながるのではないのだろうか。

主な参考文献

- ・古賀弥生「文化政策の潮流と社会包摂型文化芸術事業の実践：実践活動と政策形成の架橋に向けて」『地域共創学会誌』2022年，第8号，p51-69，http://repository.kyusan-u.ac.jp/dspace/bitstream/11178/8221/1/chiiki%20vol.8_03.pdf
- ・一般社団法人岩手県芸術文化協会ホームページ「芸術文化協会について」、<http://www.iwate-geibun.com/profile.html>，2025/2/13 最終アクセス
- ・一般社団法人岩手県芸術文化協会ホームページ「芸術体験イベント（フェスタ）」、<http://www.iwate-geibun.com/posts/activity4.html>，2025/02/13 最終アクセス